

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語11(意味の似た熟語を重ねている①)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

きしかいせい

① 起死□生

危機を救い、事態を好転させること。

こうがんむち

② 厚顔無□

あつかましくて恥知らずなさま。

こりつむえん

③ 孤立無□

一人ぼっちで誰の助けもないこと。

さんしすいめい

④ 山□水明

自然の景色がたいへん美しいこと。

しりめつれつ

⑤ □離滅裂

ばらばらでまとまりがないこと。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) 9回裏に()のホームランが出て、見事逆転した。

(2) 彼は周囲から反対され、()の中、ひるむことなく仕事をやり通した。

(3) 彼の話は()でわけがわからない。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語11(意味の似た熟語を重ねている①)

年 組 氏名

解答

きしかいせい

「起死」は死にそうな人を生き返らせること、「回生」も生き返ること。二つの熟語の意味が似ています。

① 起死回生

危機を救い、事態を好転させること。

こうがんむち

「厚顔」は面(つら)の皮が厚いこと。あつかましいこと。「無恥」を「無知」と書かないように注意しましょう。

② 厚顔無恥

あつかましくて恥知らずなさま。

こりつむえん

③ 孤立無援

一人ぼっちで誰の助けもないこと。

さんしすいめい

山は紫色にかすみ、川の水は清らかに明るく澄んでいるというところから生まれました。

④ 山紫水明

自然の景色がたいへん美しいこと。

しりめつれつ

「支離」はばらばらになること。「滅裂」はきれぎれになること。

⑤ 支離滅裂

ばらばらでまとまりがないこと。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) 9回裏に(起死回生)のホームランが出て、見事逆転した。

(2) 彼は周囲から反対され、(孤立無援)の中、ひるむことなく仕事をやり通した。

(3) 彼の話は(支離滅裂)でわけがわからない。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語12(意味の似た熟語を重ねている②)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

だいたんふてき

① 大□不敵

きもっ玉が大きく、ものおじしないこと。

でんこうせつか

② 電光石□

行動がひじょうにすばやいさま。

おみかんそう

③ □味乾燥

内容にちっともおもしろみがないこと。

しyouまつせつ

④ 枝□末節

取るに足りないささいなこと。

たいげんそうご

⑤ 大言□語

できそうもないことをいばって言うこと。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1)弱小チームを1年で優勝させるなんて、()もい
いかげんにして欲しい。

(2)彼の小説は()でおもしろみがない。

(3)彼の()なふるまいが、クラスのみんなを驚かせた。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語12(意味の似た熟語を重ねている②)

年 組 氏名

解答

- だいたんふてき 「大胆」は度胸があること。「不敵」は敵を敵とも思わないこと。どちらも意味が似ていますね。
- ① **大胆不敵**
大げさに考えること。
- でんこうせつか 「電光」は稲光のこと。「石火」は火打ち石を打ったときに出る火のこと。
- ② **電光石火**
行動がひじょうにすばやさ。
- むみかんそう 「無味」も「乾燥」もおもしろみや味わいのないこと。
- ③ **無味乾燥**
内容にちっともおもしろみがないこと。
- しょうまつせつ 「枝葉」は樹木の枝と葉。「末節」は末のほうの節。両方ともつまらないものの意味。
- ④ **枝葉末節**
取るに足りないささいなこと。
- たいげんそうご 「大言」も「壮語」もいばって大きなことを言うこと。
- ⑤ **大言壮語**
できそうもないことをいばって言うこと。

解答

四字熟語は暗記するだけではなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) 弱小チームを1年で優勝させるなんて、(大言壮語)もいかげんにして欲しい。

(2) 彼の小説は(無味乾燥)でおもしろみがない。

(3) 彼の(大胆不敵)なふるまいが、クラスみんなを驚かせた。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語13(意味の似た熟語を重ねている③)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

こだいもうそう
① □ 大妄想

大きさに考えること。

ふわらいどう
② 付和雷 □

わけもなく他人の意見に賛成すること。

ふんこつさいしん
③ 粉 □ 碎身

力の限り努力すること。

ちゅうとはんぱ
④ 中 □ 半端

どっちつかずな状態。

びじれいく
⑤ 美 □ 麗句

美しく飾り立てたことば。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) 誰にでも簡単に()せず、自分の意見を持たなくてはならない。

(2) わたしはいろいろな習い事をしてきたが、いつも()なところでやめてしまうので、反省している。

(3) どんなに()を並べたてても、彼女の心は動かなかった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語13(意味の似た熟語を重ねている③)

年 組 氏名

解答

- ① こだいもうそう **誇大妄想** 「誇大」は実際よりすぐれているように見せたり言ったりすること。
大げさに考えること。
- ② ふわらいどう **付和雷同** 「付和」は、他人に従って賛同すること。「雷同」は雷の鳴る音に共鳴すること。
わけもなく他人の意見に賛成すること。
- ③ ふんこつさいしん **粉骨砕身** 「骨を粉(こ)にして身を砕く」とも読めますね。それぐらい努力するという意味です。
力の限り身命を惜しまず努力すること。
- ④ ちゅうとはんぱ **中途半端**
どっちつかずな状態。
- ⑤ びじれいく **美辞麗句** 「美辞」は「美字」と書かないように注意しましょう。
美しく飾り立てたことば。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) 誰にでも簡単に(付和雷同)せず、自分の意見を持たなくてはならない。

(2) わたしはいろいろな習い事をしてきたが、いつも(中途半端)なところでやめてしまうので、反省している。

(3) どんなに(美辞麗句)を並べたてても、彼女の心は動かなかった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語14(反対の意味の熟語を重ねている①)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

- くうぜんぜつご
① □ 前絶後
過去にも将来にもないと思われること。
- じゃくにくきょうしよく
② 弱肉強 □
強い者が弱いものを犠牲の上に栄えること。
- せいこううどく
③ 晴耕雨 □
ゆうゆうとした生活を送ることのたとえ。
- しんしょうぼうだい
④ 針小 □ 大
小さい物事をおおげさに言うこと。
- はんしんはんぎ
⑤ 半 □ 半疑
うそか本当かわからずに迷う状態。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) わたしのおじさんは定年退職後、()の生活を送った。

(2) 彼の話は()の傾向があるので、気をつけて聞こう。

(3) 資格試験に合格したという知らせを聞いても()
だった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語14(反対の意味の熟語を重ねている①)

年 組 氏名

解答

くうぜんぜつご 「空前」は以前になかったこと。「絶後」はこれ以降にはないこと。
① 空前絶後
過去にも将来にもないと思われること。

じやくにくきょうしよく
② 弱肉強食
強い者が弱いものを犠牲の上に栄えること。

せいこうどく 晴れた日は田を耕し、雨の日は家で読書をするゆったりした生活から。
③ 晴耕雨読
ゆうゆうとした生活を送ることのたとえ。

しんしょうぼうだい 針のように小さいことを棒のように大きく言うという意味。
④ 針小棒大
小さい物事をおおげさに言うこと。

はんしんはんぎ
⑤ 半信半疑
うそか本当かわからずに迷う状態。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) わたしのおじさんは定年退職後、(晴耕雨読)の生活を送った。

(2) 彼の話は(針小棒大)の傾向があるので、気をつけて聞こう。

(3) 資格試験に合格したという知らせを聞いても(半信半疑)だった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語15(反対の意味の熟語を重ねている②)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

- ゆうめいむじつ
① □名無実
名ばかりで実質がともなわないこと。
- てっとうてつび
② 徹□徹尾
初めから終わりまで変わらず。
- ないゆうがいかん
③ 内□外患
国の内外に心配事があること。
- しつぎおうとう
④ 質疑□答
質問とそれに対する回答。
- しんしょうひつぱつ
⑤ 信賞□罰
ほめるときはほめ、罰するときには罰することを
きちんと行うこと。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) 講師の話が終わり、()の時間になった。

(2) 今この国は()が絶えない。

(3) ダムの建設計画には()反対するつもりだ。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語15(反対の意味の熟語を重ねている②)

年 組 氏名

解答

ゆうめいむじつ

- ① **有名無実**
名ばかりで実質がともなわれないこと。

てっとうてつび

頭から尾まで貫き通すという意味。

- ② **徹頭徹尾**
初めから終わりまで変わらず。

ないゆうがいかん

「内憂」は内部、国内の心配事。「外患」は外からこらむる心配事。

- ③ **内憂外患**
国の内外に心配事があること。

しつきおとう

- ④ **質疑応答**
質問とそれに対する回答。

しんしょうひつばつ

- ⑤ **信賞必罰**
ほめるときはほめ、罰するときには罰することを
きちんと行うこと。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) 講師の話が終わり、(質疑応答)の時間になった。

(2) 今この国は(内憂外患)が絶えない。

(3) ダムの建設計画には(徹頭徹尾)反対するつもりだ。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語16(同じ字でできた熟語を重ねている)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

せいせいどうどう

① 正々 □ 々

ひきょうな手段を用いず、態度が立派なさま。

さんさんごご

② □ 々五々

あちらこちらに散らばっている様子。

へいへいぼんぼん

③ 平々 □ 々

きわめて平凡なさま。

きょきょじっじつ

④ 虚々 □ 々

計略や秘術の限りを尽くして戦うさま。

つつうらうら

⑤ □ 々浦々

あらゆる所。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) われわれ選手一同は()戦うことを誓います。

(2) 日本全国()旅して歩いた。

(3) 駅に着いたら、()解散してください。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語16(同じ字でできた熟語を重ねている)

年 組 氏名

解答

せいせいどうどう

① 正々堂々

ひきょうな手段を用いず、態度が立派なさま。

さんさんごご

② 三々五々

あちらこちらに散らばっている様子。

あちらに3人、こちらに5人というように、少しずつ集まって歩いたり、散らばったりする様子。

へいへいほんほん

③ 平々凡々

きわめて平凡なさま。

きょきょじつじつ

④ 虚々実々

計略や秘術の限りを尽くして戦うさま。

「虚」は守りにすきがあること。「実」は守りが堅いこと。

つつうらうら

⑤ 津々浦々

あらゆる所。

「津」は港。「浦」は海岸。あらゆる港や海岸の意味から。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1)われわれ選手一同は(正々堂々)戦うことを誓います。

(2)日本全国(津々浦々)旅して歩いた。

(3)駅に着いたら、(三々五々)解散してください。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語17(上の熟語が下の熟語に働きかけている①)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

おんこちしん
① 温故 □ 新
古いことを学び新しい知識を得ること。

いしんでんしん
② 以心 □ 心
無言で相手と気持ちが通じ合うこと。

かいとうらんま
③ 快 □ 乱麻
もつれた物事を明快に処理すること。

いきしょうちん
④ 意気消 □
気持ちがくじけて元気が出ないこと。

あんちゅうもさく
⑤ □ 中模索
わからぬままにいろいろやってみること。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) 彼女とは話をしなくても、()で気持ちが伝わる仲だ。

(2) 新生活は()の毎日だが、くじけずにがんばってみる。

(3) 試合に負けてすっかり彼は()してしまった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語17(上の熟語が下の熟語に働きかけている①)

年 組 氏名

解答

- ① おんこちしん 温故知新
「温故」は「故(ふる)きを温(あたた)めて」「知新」は「新しきを知る」というように、前の「温故」に続いて、次の「知新」につながる1つの文になります。「温故」→「知新」
 古いことを学び新しい知識を得ること。
- ② いしんでんしん 以心伝心
「心を以(も)って心を伝う」と1つの文として読めます。「以心」→「伝心」
 無言で相手と気持ちが通じ合うこと。
- ③ かいとうらんま 快刀乱麻
からみ合ってもつれた麻の糸を切れ味のよい鋭い刀で断ち切るという意味から。「快刀」→「乱麻」
 もつれた物事を明快に処理すること。
- ④ いきしょうちん 意気消沈
「意気」が「消沈」する。「意気」→「消沈」
 気持ちがくじけて元気が出ないこと。
- ⑤ あんちゅうもさく 暗中模索
暗やみの中で手さぐりで探すという意味から。「暗中」で「模索」する。「暗中」→「模索」
 わからぬままにいろいろやってみること。

解答

四字熟語は暗記するだけではなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

- (1) 彼女とは話をしなくても、(以心伝心)で気持ちが伝わる仲だ。
- (2) 新生活は(暗中模索)の毎日だが、くじけずにがんばってみる。
- (3) 試合に負けてすっかり彼は(意気消沈)してしまった。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語18(上の熟語が下の熟語に働きかけている②)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

- いきようよう
① □ 気揚々
大いに得意なありさま。
- がでんいんすい
② 我田 □ 水
自分の都合のよいようにすること。
- かんがいむりょう
③ 感慨 □ 量
身にしみて深く感ずること。
- よういしゅうとう
④ 用意 □ 到
用意が十分にゆきとどいていること。
- りんきおうへん
⑤ 臨 □ 応変
その場に応じて適当に処理すること。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

- (1) 卒業式に保護者はみな()のおももちだった。
- (2) ここからはどのような状況になるかわかりませんので、
()に対応してください。
- (3) 試合に勝って、彼らは()と学校に戻ってきた。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語18(上の熟語が下の熟語に働きかけている②)

年 組 氏名

解答

- いきようよう 「揚々」は得意げな様子という意味。
- ① **意気揚々**
大いに得意なありさま。
- がでんいんすい 「我が田に水を引く」とも読みます。自分の田にだけ水を引くというところからできました。「我田」に「引水」すると上の熟語から下の熟語につながります。
- ② **我田引水**
自分の都合のよいようにすること。
- かんがいむりょう 「感慨」は物事に感じて心を動かすこと。「無量」は量がはかり知れないほど多いということ。「感慨」が「無量」であると上から下につながります。「無量」は「無料」と書かないように注意。
- ③ **感慨無量**
身にしみて深く感ずること。
- よういしゅうとう 「周到」は準備がすみずみまで行き届いていること。
- ④ **用意周到**
用意が十分にゆきとどいていること。
- りんきおうへん 「機に臨(のぞ)み、変に応ず」とも読みます。「臨機」は時と場所とに応じて手段を考えること。「臨機」を「臨気」と書かないように注意。
- ⑤ **臨機応変**
その場に応じて適当に処理すること。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

- (1) 卒業式に保護者はみな(感慨無量)のおももちだった。
- (2) ここからはどのような状況になるかわかりませんので、(臨機応変)に対応してください。
- (3) 試合に勝って、彼らは(意気揚々)と学校に戻ってきた。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語19(上の熟語が下の熟語に働きかけている③)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

- ① きそうてんがい
□ 想天外
思いつかないような変わったこと。
- ② ぜんごふかく
前後不 □
前後の区別もつかないほど正体がなくなった様子。
- ③ こぐんふんとう
孤 □ 奮闘
誰の助けもなく、一人で頑張ること。
- ④ 前代未 □
今までに聞いたこともない珍しいこと。
- ⑤ しゅきやくてんとう
主 □ 転倒
物事の順序や立場が逆になること。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1)この小説は()でひじょうに面白いストーリーだ。

(2)彼はチームには入らず、誰の助けも借りずに()して計画を実現させた。

(3)この事件は、わが社にとって()のできごとで、今後語り継がれるであろう。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語19(上の熟語が下の熟語に働きかけている③)

年 組 氏名

解答

きそうてんがい

① 奇想天外

思いつかないような変わったこと。

ぜんごふかく

② 前後不覚

前後の区別もつかないほど正体がなくなった様子。

こぐんふんとう

③ 孤軍奮闘

誰の助けもなく、一人で頑張ること。

ぜんだいみもん

「聞」は「もん」と呼びます。

④ 前代未聞

今までに聞いたこともない珍しいこと。

しゅきゃくてんとう

「主客」は「しゅかく」とも読みます。

⑤ 主客転倒

物事の順序や立場が逆になること。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1)この小説は(奇想天外)でひじょうに面白いストーリーだ。

(2)彼はチームには入らず、誰の助けも借りずに(孤軍奮闘)して計画を実現させた。

(3)この事件は、わが社にとって(前代未聞)のできごとで、今後語り継がれるであろう。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語20(上の熟語が下の熟語に働きかけている④)

年 組 氏名

<問題> 次の四字熟語の□に入る漢字を書きなさい。

じごうじとく
① 自業自□

自分の悪行の報いを自分が受けること。

じきしょうそう
② 時期尚□

事をなすのに、まだその時期でないこと。

しこうさくご
③ □行錯誤

失敗を重ねながら目標に近づいていくこと。

てきざいてきしょ
④ 適□適所

その人にあった仕事や職場。

ふげんじっこう
⑤ 不□実行

黙って実行すること。

次の文の内容に合う四字熟語を上①～⑤から選び、()の中に漢字で書きましょう。

(1) 何度も()を繰り返し、やっと満足のいく料理が完成した。

(2) 朝起きられないことがわかっていて夜更かしたのだから、遅刻は()だ。

(3) 今の生徒会長は()の人として、生徒からの信頼が厚い。

[四字熟語シリーズ パートⅡ]四字熟語20(上の熟語が下の熟語に働きかけている④)

年 組 氏名

解答

じごうじとく

① 自業自得

自分の悪行の報いを自分が受けること。

じきしょうそう

② 時期尚早

「時期」を「時機」と書かないように注意。「尚早」は「なお早い」ということで、その時期にまだなっていないという意味です。

事をなすのに、まだその時期でないこと。

しこうさくご

③ 試行錯誤

失敗を重ねながら目標に近づいていくこと。

てきざいてきしよ

④ 適材適所

その人にあった仕事や職場。

ふげんじつこう

⑤ 不言実行

黙って実行すること。

解答

四字熟語は暗記するだけでなく、実際に書いて使ってみましょう。頭の中に漢字を浮かべながら書いたり、話したりするとずっと覚えやすいですよ。

(1) 何度も(試行錯誤)を繰り返し、やっと満足のいく料理が完成した。

(2) 朝起きられないことがわかっていて夜更かしたのだから、遅刻は(自業自得)だ。

(3) 今の生徒会長は(不言実行)の人として、生徒からの信頼が厚い。